

てんかんをめぐるアート

—「てんかんをめぐるアート展2017」(京都)より—

【企画】

池田昭夫

京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座教授

松橋真生

京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座准教授



「お花いっぱい」

小池勇太 875 × 875mm

昨年てんかんの主治医の先生に勧められたことがきっかけで応募しました。2回目の今回は自分でアレンジメントした花を描きました。フラワーアレンジメントは今年初めての挑戦ですが、今回のアート展のために、描きたい花を自分で選びたくさんの花で大きな作品を作りました。絵を描くこと、フェルトで作品を作ることが日課です。夕方、作業所から帰るとまずはフェルトを縫ってハートや果物・動物などを作って心を落ちつけます。夕食後にはアクリル絵具を使っていろいろな絵を描きます。てんかん発作にどのような影響があるのかはわかりませんが、大好きなことなので、これからも描き続けていきたいと思っています。(文：母)